

2015 年度東北芸術工科大学卒業・修了式祝辞

2016 年 3 月 21 日

京都造形芸術大学学長 尾池和夫

本日、東北芸術工科大学大学院を修了され修士の学位を授与された 31 名の皆さん、大学を卒業して学士の学位を得られた 508 名の皆さん、おめでとうございます。この日まで、支援してこられたご家族の皆さま、まことにありがとうございます。同じ「藝術立国之碑」が建立されている志を同じくする京都の瓜生山学園京都造形芸術大学を代表して、ご卒業、修了の皆さまにこころからお祝いを申し上げます。

最近、山形には映画にまつわる話題が多いと思っています。東北芸術工科大教授の林海象監督と俳優永瀬正敏さんによる「L I F E」の撮影が 1 月末に行われたという話題が京都にも伝わりました。雪が降る中、住宅地で行われた「本番」の緊張感が漂う中、映像学科の 20 名の学生が参加しました。

自選シリーズ現代日本の映画監督 4 では、「根岸吉太郎」特集が今、開催されています。フィルムセンターの上映企画で、1980 年代以降の日本映画を牽引してきた映画監督の、自選でデビューから現在までの足跡をたどることで現代日本映画の原点を探るという試みです。

今年の卒業・修了研究・制作展では、デザイン工学部プロダクトデザイン学科の鈴木完吾（かんご）さんの「書き時計」「P I o c k（ブロック）」が全国的な話題となり、東京都美術館でも展示されました。時刻を書いて知らせるといふ 407 個の木製パーツを用いて制作した木のからくり時計が有名になりました。日本の伝統にもあるからくりは、私も興味を持っており、大いにこれを発展させてほしいと思って拝見しています。

美術科テキスタイルコースの加藤千智さんは、映画「天井桟敷の人々」の道化師の世界と天井からそれを見る観客の姿を、ティンパニーの膜 13 枚にアクリル絵の具や刺しゅうで描写しました。紡いだ羊毛で日本列島を作成した作品もありました。

障害のある人のための介助犬の認知度を高める目的で、L I N E のスタンプを作成したニュースも話題になりました。企画構想学科の学生さんの作品と聞きました。私も昨年は「学長ナマズ」というスタンプを出しましたので、これにはとても興味を持ちました。

昨年も触れましたが、大学院地域デザイン領域の是恒（これつね）さくらさん、美術科 4 年の梅原もも子さんが、石巻市の冊子「I S H I N O m a k i n g（イシノメイキング）」を作られました。震災で住まいや職を替えた人たちの題材で新しい魅力を伝えていきます。私も石巻の雄勝の硯石を使うプロジェクトを今、準備しているところです。

梅原さんは、千葉県出身で、被災地へ通いながらボランティア活動を行い、復興の歩

みを紹介するラジオ番組の制作に取り組みながら、このフリーペーパーの作成に携わってきました。

今年は、六本木ヒルズの宮島達男さんの「カウンター・ヴォイド (Counter Void)」が、大震災から5年ぶりに点灯しました。人間の「生と死」をテーマに制作された六本木を代表するパブリックアートです。2011年3月13日に消灯されたままでしたが、再び点灯することによるメッセージ性が話題になりました。アートを使うことの意味を教えられる出来事であったと思っています。

卒業・修了研究・制作展にみごとに現れているように、また、教員や学生たちがさまざまな現場で活躍しておられる姿に見られるように、この東北芸術工科大学は、芸術とデザインを基本に、科学と技術と学術と芸術という人類の基本に触れることのできる貴重な大学であります。

一昨日、私は京都造形芸術大学通信教育部の卒業式で96歳の平田繁實さんに卒業証書を渡しました。平田さんの陶芸の卒業作品は、とても可愛い作品です。芸術活動は何歳になってもすばらしい作品を生み出します。パブロピカソが『ゲルニカ』を発表したのは、58歳のとき、パブロカザルスが国際連合の会場で『鳥の歌』を演奏したのは95歳のときでした。一方、科学者の活動は若いときに優れた成果を出します。ワトソンのDNA2重螺旋構造は25歳、アインシュタインの相対性理論は26歳、湯川秀樹の中間子論は27歳でした。広中平祐のフィールズ賞の論文は33歳、ついでに私が、地震は複数の破壊で起こるという論文を出したのは31歳のときでした。

科学と芸術の関係を多くの人が論じてきました。例えば、寺田寅彦のエッセイにもあります。科学の分野では測定することがよくあります。数量化が重要視されます。アインシュタインは、「Everything that can be counted does not necessarily count, and everything that counts cannot necessarily be counted」と言いました。「count」には数えるという意味と大事にするという意味があります。数えられるものすべてが大事なわけではなく、大事なものがすべて数えられるわけではない、という意味の言葉です。ここに私は、科学と芸術との関係を考える大きなヒントがあると思います。そんなことを、今日卒業される皆さまにも考えてみてほしいと思います。

この大学で身につけられた力を大いに発揮して、進学し、あるいは社会に出て、明日からその威力を、一步一步、確実に具体化して行ってくださいよう祈りながら、私のお祝いの言葉といたします。

修了、ご卒業、まことにおめでとうございます。

ありがとうございました。